

判例刑事手続法 [補訂版]

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/34271

判 例 索 引

裁 判 例	事 項	頁
大決大13. 11. 27 刑集3-804	上訴の利益の判断基準	374
最大判S23. 2. 6 刑集2-2-17	不当に長い拘禁後の自白	262
最大判S23. 6. 23 刑集2-7-715	〃	262
最一判S23. 8. 5 刑集2-9-1123	心証(証明)の程度	254
最二決S24. 2. 22 刑集3-2-221	厳格な証明と自由な証明(情状)	248
最一判S24. 4. 7 刑集3-4-489	自白の補強法則(主観的要件)	271
最大判S24. 5. 18 刑集3-6-789	証人尋問権と供述書面の証拠能力	281
最大判S24. 11. 2 刑集3-11-1732	不当に長い拘禁後の自白	262
最三判S24. 12. 13 裁刑15-349	違法収集証拠の証拠能力	307
最大判S25. 4. 12 刑集4-4-535	「前審の裁判に関与したとき」の非該当例	8
最大決S25. 4. 21 刑集4-4-666	再審事由(6号一原判決が認めた罪より軽い罪)	410
最一決S25. 7. 13 刑集4-8-1356	原審弁護人の上訴取下げの効力	376
最大判S25. 9. 27 刑集4-9-1805	一事不再理効の根拠	336
最大判S25. 9. 27 刑集4-9-27	検察官上訴の合憲性	374
最三判S25. 11. 21 刑集4-11-2359	自白の任意性(黙秘権の不告知)	267
最三判S25. 12. 24 刑集4-12-2621	控訴審における事実取調べの趣旨	392
最大判S26. 8. 1 刑集5-9-1684	自白の任意性(手錠を施したままの取調べ)	264
最三判S27. 1. 29 判タ18-53	除斥される「職務の執行」の非該当例	8
最大判S27. 3. 5 判時103-4	起訴状一本主義(違反の治癒の可否)	185
〃	起訴状一本主義(前科の記載の是非)	〃
最大判S27. 4. 9 刑集6-4-584	供述不能(証言拒否)	289
最大判S27. 5. 14 刑集6-5-769	不当に長い拘禁後の自白	262
東京高決S27. 7. 17 高集5-7-1163	再審事由(6号一証拠の新規性)	411
最大判S27. 8. 6 「石井記者事件」刑集6-8-974	証言拒絶権(新聞記者)	237
東京高判S27. 9. 4 高集5-12-2049	麻酔分析による供述の証拠能力	244
東京高判S27. 11. 15 高集5-12-2201	立証趣旨の拘束力	252
最二判S27. 12. 19 刑集6-11-1329	同意書面(弁護人の同意の効力)	299
最一決S28. 2. 12 刑集7-2-211	「判例」の意義	401
東京高判S28. 2. 21 高集66-3-367	拳証責任(特例規定)	251
最三判S28. 4. 14 刑集7-4-841	供述拒否権の告知時期、方法	111
最三判S28. 8. 18 刑集7-8-1737	任意的減免事由の判示の要否	327
最二判S28. 9. 25 刑集7-9-1832	一部上訴	376

最三判S 28. 10. 6 刑集7-10-1888	除外事由「取調べに関与したとき」の非該当例	8
最二判S 28. 10. 9 刑集7-10-1904	厳格な証明と自由な証明（自白の任意性）	248
最一判S 28. 10. 15 刑集7-10-1934	鑑定書の証拠能力	294
最二決S 28. 11. 27 刑集7-11-2294	除外される「職務の執行」の非該当例	8
東京高判S 28. 12. 14 高特39-221	黙秘と量刑	143
最大判S 28. 12. 16 判時17-25	親告罪の一部起訴	177
最三判S 29. 3. 2 刑集8-3-217	訴因変更の要否	221
最二判S 29. 5. 14 刑集8-5-676	訴因変更の可否	224
最二決S 29. 6. 2 刑集8-6-794	刑の量定不当の例	385
最一決S 29. 7. 15 刑集8-7-1137	職務質問（停止行為）	47
最一決S 29. 7. 29 刑集8-7-1217	供述不能（記憶喪失）	289
最二決S 29. 7. 30 刑集8-7-1231	訴訟能力	16
最三決S 29. 9. 7 刑集8-9-1459	勾留理由の開示請求権	155
最三判S 29. 9. 7 刑集8-9-1447	訴因変更の可否	224
最三決S 29. 10. 19 刑集8-10-1610	再審事由（6号一証拠の新規性）	412
最二判S 29. 11. 5 判時39-15	おとり捜査の適否	42
最三判S 30. 1. 11 刑集9-1-14	検察官面前調書（特信情況の判断事由）	285
福岡高判S 30. 2. 28 高特2-6-141	「証明力を争う」の意義	303
最二判S 30. 3. 25 刑集9-3-519	除外事由「取調べに関与したとき」の非該当例	8
東京高判S 30. 4. 2 高判集8-4-449	再伝聞供述	304
最二判S 30. 6. 17 判時55-24	補強証拠適格（自由を内容とする第三者供述）	272
最大判S 30. 6. 22 判時52-1「三鷹事件」	自白の補強法則（犯人）	272
〃	控訴理由（訴訟手続の法令違反）	382
最三判S 30. 9. 13 刑集9-10-2059	顕著な事実	249
最一判S 30. 9. 29 判時60-3	上訴審における職権調査義務	389
最二判S 30. 10. 14 刑集9-11-2213	除外事由「取調べに関与したとき」の非該当例	8
最大判S 30. 12. 14 刑集9-13-2760	緊急逮捕の合憲性	63
最二判S 30. 12. 16 刑集9-14-2791	準現行犯（赃物等の所持）	68
最三判S 30. 12. 26 判タ57-41	事件単位の原則（余罪の未決勾留日数算入）	77
最二決S 31. 3. 9 刑集10-3-303	逮捕状の緊急執行	61
最三判S 31. 3. 27 判時75-23	特信文書（法323）	297
最一判S 31. 5. 17 判タ60-54	公知の事実	249
大阪高判S 31. 6. 19 判時79-7	違法収集証拠の証拠能力	317
最三決S 31. 7. 4 判タ62-60	上訴権回復請求事由	377
最大判S 31. 7. 18 判時82-3	破棄自判の際の証拠調べ・意見陳述	395

最一決S31. 10. 25 刑集10-10-1439	現行犯逮捕（「現に罪を行い終わった者」の意義）	66
最大決S31. 12. 24 判時99-25	事件単位の原則（余罪勾留期間の刑事補償）	77
最三判S32. 1. 22 刑集11-1-103	再伝聞供述	305
最大判S32. 2. 20 判時103-9	黙秘権（署名を欠いた弁護人選任届の効力）	142
最三判S32. 5. 28 刑集11-5-1548	緊急逮捕の急速性	64
最二判S32. 7. 19 「八丈島事件」判時118-1	強制、拷問による自白	261
最一判S32. 7. 25 刑集11-7-2025	診断書の証拠能力	294
最二決S32. 9. 26 刑集11-9-2376	未成年者の告訴権	53
最二決S32. 9. 30 刑集11-9-2403	検察官面前調書（「実質的に異なった供述」の意義）	284
最二決S32. 11. 2 刑集11-12-3047	補強証拠適格（備忘録）	273
最大判S32. 11. 27 判時134-12	挙証責任（推定規定）	250
最一決S32. 12. 5 刑集11-13-3167	破棄判決の拘束力	379
東京地決S33. 2. 22 一審刑集1-2-331	科刑上一罪の再逮捕・勾留	80
最大決S33. 2. 26 判時142-9	厳格な証明と自由な証明（累犯前科）	247
最三判S33. 5. 20 判時154-34	起訴状一本主義（脅迫文書の引用）	184
最三決S33. 5. 27 刑集12-8-1683	再審事由（6号—証拠の明白性）	413
最大判S33. 5. 28 「印藤巡査殺し事件」判時150-6	厳格な証明と自由な証明（共謀事実）	247
〃	自白の補強法則（共犯者の自白）	275
〃	共謀事実の判示の要否・範囲	327
東京高判S33. 5. 31 高判集11-5-275	告訴の客観的不可分の原則（包括一罪）	175
最二決S33. 6. 4 刑集12-9-1971	現行犯逮捕（「現に罪を行い終わった者」の意義）	67
最二判S33. 6. 13 「小島事件」判時153-9	強制、拷問による自白	261
最三判S33. 6. 24 刑集12-10-2269	訴因変更の要否	218
最大決S33. 7. 29 判時156-6	差押え場所の特定	127
最一決S34. 2. 19 刑集13. 2. 178	「前審の裁判に関与したとき」の非該当例	8
最二判S34. 12. 11 判時214-6	訴因変更の可否	225
大阪高判S35. 5. 26 判時228-34	自白の任意性（弁護人選任妨害）	269
最二判S35. 9. 8 判時249-12	実況見分調書の証拠能力	292
最二判S35. 9. 9 刑集14-11-1477	共同被告人の証人適格	236
最三決S35. 11. 15 判時250-27	訴因変更の要否	221
最三判S35. 11. 29 判時252-34	不当に長い拘禁後の自白	262
最三決S35. 12. 23 判時252-33	親告罪の告訴前の捜査	174
最一判S36. 2. 23 刑集15-2-396	除斥される「職務の執行」の非該当例	8
最二判S36. 5. 26 判時266-31	実況見分調書中の指示説明部分の証拠能力	293
最大判S36. 6. 7 「大阪麻薬事件」判時261-5	「逮捕する場合」の意義	135

〃	同意された違法収集証拠の証拠能力	317
最三判S36. 6. 13 判時268-28	訴因変更の要否	217
東京高判S36. 7. 18 判時293-28	「証明力を争う」の意義	303
最三決S36. 11. 21 判時281-30	起訴後の取調べ	112
最大判S37. 5. 2 判時302-4	黙秘権（事故報告義務）	142
最三判S37. 7. 3 判時312-20	勾留の延長（「やむを得ない事由」の意義）	75
最三決S37. 9. 18 判時318-34	上訴の利益（無罪判決）	374
最大判S37. 11. 28 「白山丸事件」判時322-2	訴因の特定	182
大阪高判S38. 9. 6 判時16-7-526	警戒検問	51
最一判S38. 9. 12 「松川事件」判時346-6	「判例違反」の意義	401
最二判S38. 9. 13 判時352-80	自白の任意性（手錠を施したままの取調べ）	264
最一判S38. 10. 17 「白鳥事件」判時349-2	供述の伝聞性	280
最三判S38. 11. 12 判時17-2367	破棄の範囲	398
東京地判S38. 12. 21 下判時5-11.12-1184	親告罪の一部起訴	176
仙台高判S39. 2. 7 判時366-50	第1審判決後の情状事実の取調べ範囲	393
仙台高判S39. 3. 19 判時17-2-206	賃借人の告訴権	53
東京地決S39. 10. 15 下判時6-9, 10-1185	違法逮捕と勾留（裁判官印の欠落）	84
最三決S39. 11. 10 判時18-9-547	告訴（「犯人を知った」の意義）	55
最大決S39. 11. 18 判時395-49	上告理由（1号一憲法違反）	400
最二決S39. 12. 3 判時394-8	上告理由（1号一憲法解釈の誤り）	401
最大判S40. 4. 28 判時406-20	訴因変更の要否	218
〃	訴因変更命令	230
最大判S40. 4. 28 判時406-15	審判不開始決定の一事不再理効	338
東京高判S40. 6. 3 判時427-53	上訴の利益（予備的訴因の認定）	374
東京高判S40. 7. 8 判時438-62	裁判の内容的確定力	335
東京高判S40. 10. 29 判時430-33	搜索・差押え場所の特定	127
〃	搜索・差押え令状の呈示	129
大阪高判S40. 11. 8 下判時7-11-1947	現行犯逮捕（「現に罪を行い終わった者」の意義）	67
東京高判S41. 1. 27 判時439-16	現行犯逮捕の必要性の要否	66
最二決S41. 2. 21 判時450-60	証拠能力（筆跡鑑定）	244
最一判S41. 4. 21 判時447-95	公訴時効の起算点	170
東京高決S41. 6. 30 判時458-64	ポリグラフ検査	244
最二判S41. 7. 1 判時457-63	自白の任意性（偽計）	265
最大判S41. 7. 13 判時451-24	余罪と量刑	325、326
最大判S41. 7. 20 判時20-6-677	除斥事由「取調べに関与したとき」の該当例	8

最一判S 4 1. 7. 2 1「大森傷害事件」判452-62	違法捜査による公訴の効力	1 6 4
最三決S 4 1. 7. 2 6 判時453-3	余罪捜査のための接見指定	1 5 6
東京高判S 4 1. 9. 3 0 判時473-60	挙証責任転換事実の証明の程度	2 5 6
佐賀地決S 4 1. 1 1. 1 9 判時470-64	捜索・差押え場所の特定	1 2 7
最三S 4 1. 1 1. 2 2 判時467-65	証拠能力（前科による故意認定）	2 4 3
横浜地決S 4 2. 2. 2 下集9-2-161	事件単位の原則（包括一罪の場合）	7 6
福岡高決S 4 2. 3. 2 4 判時483-79	常習一罪の再逮捕・勾留	7 9
最一判S 4 2. 5. 2 5 判時486-75	控訴審における訴因変更	3 9 6
最大判S 4 2. 7. 5 判時485-15	余罪と量刑	3 2 6
最一判S 4 2. 8. 3 1 判時497-77	訴因変更の許否	2 2 7
最三決4 2. 9. 1 3 「枚方事件」判時498-75	準現行犯（「誰何・逃走」の意義）	6 9
大阪高判S 4 2. 9. 2 8 判時221-177	検察官面前調書（特信情況の適用範囲）	2 8 4
最一判S 4 2. 1 2. 2 1 判時505-19	自白の補強法則（無免許事実）	2 7 2
最一決S 4 3. 2. 8 判時509-19	証拠能力（ポリグラフ検査）	2 4 4
最二判S 4 3. 3. 2 9判時515-84	一事不再理効と訴因の拘束力	3 4 1
東京高判S 4 3. 4. 9判時523-87	上訴の利益（予備的訴因の認定）	3 7 4
東京地決S 4 3. 5. 2 4 判時222-242	勾留の要件（「住居不定」の意義）	7 3
最大決S 4 3. 6. 1 2 2 判時519-3	保釈保証金没取決定に対する不服申立権者	3 7 3
最二判S 4 3. 1 0. 2 5 「八海事件第3次上告審」判時533-14	破棄判決の拘束力	3 7 8
最三決S 4 3. 1 1. 2 6 判時540-23	訴因変更命令	2 2 9
最三決S 4 4. 3. 1 8 「国学院大学映画フィルム差押事件」判時548-22	捜索・差押えの必要性審査の可否	1 2 4
最二決S 4 4. 4. 2 5 判時554-3	証拠開示の要件	1 9 4
最二決S 4 4. 5. 3 1 判時558-92	上訴取下げの効力（錯誤）	3 7 6
金沢地七尾支判S 4 4. 6. 3 「蛸島事件」判時563-14	別件逮捕・勾留の適法性	8 7
東京高判S 4 4. 6. 2 0 高集22-3-352	無令状捜索等における「逮捕の現場」の意義	1 3 6
高松高判S 4 4. 6. 3 0 刑集24-13-1869	居住者の告訴権	5 4
最三決S 4 4. 7. 1 4 判時561-82	事件単位の原則（余罪と裁量保釈事由）	7 7
最三決S 4 4. 7. 1 4 判時561-82	保釈（ 〃 ）	1 9 1
最大決S 4 4. 1 0. 1 判時569-20	控訴審における被告人の召喚義務	3 8 8
最一決S 4 4. 1 0. 2 判時573-92	起訴状一本主義（名誉毀損文書の引用）	1 8 4
京都地決S 4 4. 1 1. 5 判時629-103	勾留請求却下の緊急逮捕	8 2
最大決S 4 4. 1 1. 2 6 「博多駅事件」判時574-11	取材の自由と捜索・差押え	1 2 5
最大判S 4 4. 1 2. 2 4 「京都府学連デモ事件」判時577-18	公道上の写真撮影の適否	4 0
東京地判S 4 5. 2. 2 6 「東京麻布連続放火事件」判時591-30	別件逮捕・勾留の適法性	8 7
最大判S 4 5. 1 1. 2 5 「切り違え尋問事件」判時613-18	自白の任意性（偽計）	2 6 6

東京高判S45. 12. 3 刑2-12-1257	告訴の客観的不可分の原則 (科刑上一罪)	176
最三判S45. 12. 22 刑24-13-1862	居住者の告訴権	54
東京高判S46. 3. 8 判タ264-343	逮捕する場合における余罪物件の差押え	137
最大決S46. 3. 24 「新島ミサイル事件」 判時627-6	控訴審の職権調査の範囲	391
最三判S46. 6. 22 判時638-50	訴因変更の要否	219
大阪地判S46. 9. 9 判時662-101	択一的認定	324
東高判S46. 10. 27 判時656-101	準現行犯人「犯人として追呼されているとき」	68
最三決S47. 1. 18 判時655-85	控訴審の職権調査義務	389
東京地決S47. 4. 4 判時665-103	事情変更による再逮捕・勾留	81
最三判S47. 5. 30 民集26-4-826	公訴時効の起算点	170
最二判S47. 6. 2 判時668-129	酒酔い 鑑識カードの証拠能力	293
東京高判S47. 6. 14 判タ285-313	取調べを請求できなかった「やむを得ない事由」	385
最一判S47. 6. 15 判時674-112	裁判の外部的成立	330
最三決S47. 7. 25 判時679-3	訴因変更の可否	225
最大判S47. 12. 20 「高田事件」 判時687-18	迅速な裁判	3、4
最二判S48. 2. 16 判時692-105	控訴理由 (法令適用の誤り)	383
最二判S48. 2. 16 判時700-132	取調べを請求できなかった「やむを得ない事由」	385
広島高岡山支決S48. 4. 9 判時702-116	勾留の要件 (「逃亡のおそれ」の意義)	74
浦和地決S48. 4. 21 刑職月報5-4-874	勾留請求却下後の通常逮捕	83
最一決S48. 10. 8 判時715-32	忌避事由「不公平な裁判をする虞」	9
東京高判S48. 10. 16 判時727-102	事情変更による再逮捕・勾留	81
最一判S48. 12. 13 判時725-104	心証の程度	255
大阪地判S49. 5. 2 刑職月報6-5-583	裁判の内容的確定力	333
福岡高裁那覇支判S49. 5. 13 判時763-110	自白に対する違法収集証拠排除法則の適用	316
最大判S49. 5. 29 判時739-38	酒酔い・無免許運転及び業務上過失致死の罪数	223
福岡高決S49. 10. 31 判時771-107	包括一罪の再逮捕・勾留	79
東京地決S49. 12. 9 「都立富士高校放火事件」 判時763-16	別件逮捕・勾留の適法性	88
〃	取調受忍義務の範囲	105
〃	余罪の取調べの可否と範囲	108
東京地決S50. 1. 29 判時766-25	起訴後の取調べの可否と時期の方法	114
最一決S50. 5. 20 (白鳥事件) 判時776-24		413
東京地判S50. 5. 29 判時805-84	捜索・差押え令状の呈示	130
大阪高判S50. 8. 27 判タ333-339	一事不再理効が及ぶ範囲	339
大阪高判S50. 11. 19 判時813-102	緊急逮捕手続 (「直ちに」の意義)	65
最一判S51. 2. 19 判時807-101	共犯者の自白 (団藤反対意見)	275

最三決S51. 3. 16 判時809-29	任意捜査の限界	33、34
福岡高裁那覇支判51. 4. 5 「沖縄ゼネスト事件」判時345-321	訴因変更の可否	228
最一決S51. 9. 14 判時827-122	「判例」の意義	401
最一決S51. 10. 12 (財田川事件) 判時828-23	再審事由 (6号一証拠の明白性)	413
最一判S51. 10. 28 判時836-122	共犯者の自白 (団藤補足意見)	277
最一判S51. 11. 4 判時833-19	裁判の外部的成立	331
最一判S51. 11. 18 判時837-104	別件証拠物の差押え	124
最二決S52. 8. 9 「狭山事件」判時864-22	別件逮捕勾留の違法性	90
東京高判S53. 2. 23 職研報10-1, 2-75	控訴理由 (事実誤認)	386
最一決S53. 3. 6 判時882-117	訴因変更の可否	226
東京高判S53. 3. 29 「都立富士高校放火事件」判時892-29	別件逮捕・勾留の適法性	88
〃	取調受忍義務の範囲	106
〃	余罪の取調べの可否と範囲	108
東京高判S53. 5. 31 「大菩薩峠事件」 刑職研報10-4. 5-883	逮捕の際の第三者規制	58
最三判S53. 6. 20 「米子銀行強盗事件」判時896-14	職務質問 (所持品検査)	48
最一決S53. 6. 28 「東大安田講堂事件」判時890-73	同意書面 (同意の擬制)	301
最一判S53. 9. 7 「大阪覚せい剤事件」判時901-15	違法収集証拠排除法則	38、307～309
最一決S53. 9. 22 判時903-104	職務質問 (停止行為)	47
最二判S53. 10. 20 民集32-7-1367	公訴に要する嫌疑内容	164
最一決S53. 10. 31 判時907-123	上訴の利益 (控訴棄却決定)	374
東京高判S54. 2. 7 判時940-138	「証明力を争う」の意義	303
東京高判S54. 2. 14 判時921-135	公訴時効の停止	173
高松高決S54. 3. 14 判時995-3	再審事由 (6号一証拠の明白性)	413
最三決S54. 4. 24 判時925-49	「判例違反」の意義	402
富山地決S54. 7. 26 判時946-137	違法逮捕と勾留 (制限時間内に通常逮捕)	84
東京高判S54. 8. 14 判時973-130	〃	85
福岡高決S54. 9. 27 (免田事件) 研彙32-2-186	再審事由 (6号一証拠の明白性)	414
最三決S54. 10. 16 判時945-133	任意性調査の時期の方法	298
東京高判S55. 2. 1 「ニセ電話事件」判時960-8	証拠能力 (声紋鑑定)	245
最三決S55. 3. 4 判時956-134	訴因変更の要否	219
最一決S55. 4. 28 刑集34-3-178	被告人の余罪勾留事件の接見指定	155
最二決S55. 5. 12 判時967-132	公訴時効の停止	173
最三決S55. 9. 22 刑集34-5-272	交通検問	50
最一決S55. 10. 23 判時980-17	強制採尿の手続	140
最一決S55. 12. 11 判時984-41	再審事由 (6号一証拠の明白性)	414

最一決S55. 12. 17 「チッソ水俣病補償請求関連傷害事件」判時984-37	訴訟量権の逸脱による起訴	166
最一決S56. 4. 25 「広島吉田町覚せい剤使用事件」判時1000-128	訴因の特定	182
最三判S56. 7. 14 刑集35-5-497	公訴時効の停止	171
最三決S56. 7. 14 判時1013-3	裁判の内容的確定力	334
最三決S56. 11. 20 「にせ電話事件」判時1024-128	秘密録音の許容限度	41
広島高判S56. 11. 26 判時1047-162	別件捜索・差押え	123
最一決S57. 5. 25 「千葉大チフス菌事件」判時1046-15	疫学的証明の可否・条件	253
最一決S57. 8. 27 判時1051-158	逮捕に関する準抗告	407
大阪高判S57. 9. 27 判481-146	起訴状一本主義（暴力団組員であることの記載）	185
最三判S57. 12. 17 判時1065-194	裁判官面前調書	282
東京高判S58. 1. 27 判時1097-146	供述の伝聞性	281
広島高判S58. 2. 1 判時1093-151	緊急逮捕手続（「直ちに」の意義）	65
最二決S58. 6. 30 判時1081-159	検察官面前調書（「前の供述」の意義）	285
東京高判S58. 7. 13 刑集36-2-86	写しの証拠能力	305
最三判S58. 9. 6 「日大闘争事件」判時1097-11	訴因変更命令	229
最三決S58. 9. 13 判時1100-156	鑑定の拘束力	252
東京地判S58. 9. 30 判時1091-159	起訴後の告訴の追完	175
東京高決S58. 10. 28 判時1107-4	3号書面該当性（米国大陪審証言調書）	287
最一決S58. 12. 19 判時1102-147	厳格な証明と自由な証明（訴訟手続上の事実）	248
札幌高判S58. 12. 26 判時1111-143	余罪証拠物の差押え	138
高松高判S59. 1. 24 判時1136-158	一事不再理効と訴因の拘束力	342
最一決S59. 1. 27 判時1105-32	不告不理の原則	159
最二決S59. 2. 13 判時1121-144	職務質問（停止行為）	35
最二決S59. 2. 29 「高輪グリーンマンション事件」判時1112-31	在宅被疑者の取調べの許容範囲	37
〃	伝聞供述の排除手続	298
大阪高判S59. 4. 19 「神戸まつり事件」判時534-225	余罪の取調べの可否と範囲	109
最三決S59. 7. 3 判時1128-38	鑑定拘束力	252
最一決S59. 9. 20 判時1133-155	控訴審における事実取調べの範囲	392
最二決S59. 12. 21 判時1141-62	現場写真の証拠能力	306
東京高判S60. 3. 19 刑集37-3-4-57	逮捕状の呈示の意義	61
東京高判S60. 12. 13 「日石・土田邸事件」判時1183-3	自白の任意性（逮捕夜間に及ぶ取調べ）	263
仙台高判S60. 12. 16 判時1195-153	公訴時効の停止	173
大阪高判S60. 12. 18 判時1201-93	現行犯逮捕の必要性	66
最二判S61. 2. 14 判時1186-149	自動速度監視装置による写真撮影	40
最一決S61. 3. 3 判時1191-145	特信文書（法323）	297

札幌高判S61. 3. 24 高集39-1-8	択一的認定	324
最二判S61. 4. 25 判時1194-45	違法収集証拠の証拠能力	313
東京高判S62. 1. 28 判時1228-136	証明の必要 (他事件の審理内容)	249
最一決S62. 3. 3 判時1232-153	証拠能力 (臭気識別)	245
最二決S62. 10. 30 判時1254-131	取調べを請求できなかった「やむを得ない事由」	386
最大判S63. 2. 17 判時1267-16	弁護人の上訴権	375
最三決S63. 2. 29 「熊本水俣病事件」判1266-3	公訴時効の起算点	170
東京高判S63. 4. 1 「山谷暴動事件」判1278-152	公道上に設置されたビデオカメラによる撮影の適否	40
東京高判S63. 5. 31 判時1277-166	択一的認定	324
最二決S63. 9. 16 刑集42-7-1051	職務質問 (任意同行)	48
最三決S63. 10. 25 刑集42-8-1100	訴因変更の可否	226
東京高判S63. 11. 10 判時1324-144	検察官面前調書 (特信情況の適用範囲)	284
東京高判S63. 11. 10 判時1324-144	供述不能 (黙秘)	290
名古屋高判H元. 1. 18 判タ696-229	準現行犯人 (「誰何」の意義)	68
大阪高判H元. 3. 7 判タ704-284	訴因変更の可否	227
最一判H元. 6. 29 民集43-6-664	公訴に要する嫌疑内容	164
最二決H2. 6. 27 判時1354-160	検証に関する準抗告	407
最二決H2. 6. 27 の藤島裁判官の補足意見 判1354-160	差押え物件以外の物の写真撮影の適否	133
最二決H2. 7. 9 「TBS ビデオテープ差押処分事件」判1357-34	取材の自由と搜索・差押え・検証	125
浦和地判H2. 10. 12 「三郷市外国人アパート放火事件」判1376-24	別件逮捕・勾留の適法性	93
浦和地判H3. 3. 25 判タ760-261	自白の任意性 (黙秘権の不告知)	267
浦和地判H3. 3. 25 判タ760-261	〃 (弁護人選任権の不告知)	268
千葉地判H3. 3. 29 「中核派成田闘争事件」判1384-141	秘密録音の許容限度	41
東京高判H4. 10. 14 高集45-3-66	単独犯と共同正犯の択一的認定	323
福岡高判H5. 3. 8 判タ834-275	第三者宅同行後に現行犯逮捕した場合の搜索・差押え	137
東京高判H5. 10. 21 判タ846-294	供述不能 (再証人尋問前の死亡)	290
福岡高判H5. 11. 16 判時1480-82	任意取調べ中の接見指定	154
東京高判H6. 5. 11 判タ861-299	搜索場所に居合わせた者の着衣等の搜索・差押え	131
東京高判H6. 6. 14 速報3002	職務質問 (抑止行為)	48
最一決H6. 9. 8 刑集48-6-263	同居人の携帯物の搜索・差押え	131
最三決H6. 9. 16 判時1510-154	採尿令状による強制連行	133
最三決H6. 9. 16 刑集48-6-420	違法収集証拠の証拠能力	311
最大判H7. 2. 22 「ロッキード事件丸紅ルート」判1527-3	刑事免責を付与して得られた供述	246
最二決H7. 3. 27 判時1525-51	必要的弁護制度の適用除外要件	147
最三決H7. 5. 30 判時1537-178	違法収集証拠の証拠能力	38、314

最三判H7. 6. 20 判時1544-128	供述不能(強制送還)	289
最二決H7. 6. 28 判時1534-139	上訴取下げの効力(上訴能力)	377
最三決H8. 1. 29 「和光大学内ゲバ事件」判時1557-145	準現行犯人の意義	67
〃	逮捕現場から連行後の捜索・差押え	136
大阪高判H8. 11. 27 判時1603-151	同意書面(弁護人の同意の効力)	300
最三決H9. 1. 28 「名張ぶどう酒事件」判時1592-40	再審事由(6号一証抛の明白性)	415
最一判H9. 1. 30 判時1592-142	黙秘権(呼気検査拒否)	143
福岡高判H10. 2. 5 判時1642-157	同意書面(弁護人の同意の効力)	300
最二決H10. 5. 1 刑集52-4-275	フロッピーディスクの差押えの適法性	132
東京高判H10. 6. 8 判タ987-301	単独犯と共同正犯の択一的認定	322
大阪高判H10. 9. 1 判タ1004-289	控訴理由(事実誤認)	386
最二判H10. 9. 7 判時1661-70	逮捕の必要性	60
最三決H10. 10. 27 「マルヨ無線強盗殺人放火事件」判時1657-38	再審事由(証抛の明白性)	415
最大判H11. 3. 24 「安藤・斉藤事件」判時1680-72	取調べ受忍義務と黙秘権の関係	102
〃	弁護人選任権の意義	144
〃	弁護人との接見交通権の意義	148
〃	「捜査のため必要があるとき」の意義と要件	151
福岡高決H12. 2. 29 判タ1061-272	再審事由(6号一証抛の新規性)	411
最三判H12. 6. 13 「内田事件」判時1721-60	逮捕直後の接見指定	153
最二決H12. 7. 17 「足利幼女誘拐事件」判時1726-177	証抛能力(DNA鑑定)	245
最二決H12. 10. 31 判時1730-160	3号書面該当性(国際司法共助による供述書)	286
最三決H13. 4. 11 判時1748-175	訴因変更の要否	220
東京高判H14. 3. 15 判時1817-162	一事不再理効と訴因の拘束力	343
最一決H14. 7. 18 判時1800-155	訴因の特定	183
東京高判H14. 9. 4 「ロザール事件」判時1808-144	違法収集証抛排除法則の適用(自白)	37、316
最一決H14. 10. 4 判時1802-158	捜索・差押え令状の呈示の時期・方法	129
最二判H15. 2. 14 「大津覚せい剤事件」判時1819-19	違法収集証抛の証抛能力(否定例)	312
〃	違法捜査の波及効	314
〃	毒樹の果実の例外	315
最二決H15. 2. 20 判時1820-149	訴因変更の要否	221
最一決H15. 5. 26 判時1829-154	違法収集証抛の証抛能力	312
最二判H15. 6. 2判時1829-162	一事不再理効と訴因の拘束力	341
福岡地判H15. 6. 24 判時1845-158	起訴後の取調べ(第一回公判期日後)	114
最一決H15. 6. 30 判時1833-160	押収処分を受けた者の還付請求権	408
最三判H15. 10. 7 判時1843-3	一事不再理効と訴因の拘束力	344

最一決H15. 11. 26 判時1842-158	3号書面該当性 (大韓民国裁判所の公判調書)	286
最二判H16. 2. 16 判時1855-168	控訴審の職権調査の範囲	391
最一決H16. 7. 12 判時1869-133	おとり捜査の適否	42
最三判H16. 9. 7 判時1878-88	弁護人の接見交通権 (接見中断の可否)	153
最三決H17. 3. 25 判時1893-158	準抗告申立権者	408
最三判H17. 4. 19 判時1896-92	弁護人の接見交通権 (接見場所のない場合)	154
福岡地判H17. 5. 19 判時1903-3	3号書面該当性 (中国警察官の供述録朱書)	288
最二決H17. 9. 27 判時1910-154	実況見分調書の証拠能力	294
大阪高判H18. 9. 22 判時1947-167	証拠開示の必要性及び弊害の内容	203
大阪高決H18. 10. 6 判時1945-166	類型証拠該当性	204
最三決H18. 10. 10 判時1952-175	原判決を破棄すべき「刑の変更」	397
東京高決H18. 10. 16 判時1945-166	類型証拠該当性	204
最三判H18. 11. 7 判時1957-167	証明力を争うための証拠の範囲	302
最三決H18. 11. 14 判時1947-167	証拠開示の必要性及び弊害の内容	203
最三決H18. 11. 20 判時1954-158	公訴時効の停止	172
最一決H19. 3. 19 判時1964-161	形式判決に対する破棄自判	394
最一決H19. 10. 16 判時1988-159	心証 (証明) の程度	254
最三決H19. 12. 25 判時1996-157	証拠開示命令の対象証拠の範囲	208
最二決H20. 4. 15 判時2006-159	写真撮影・録画	41
最一判H20. 4. 25 判時2013-156	鑑定の拘束力	253
最三決H20. 6. 25 判時2014-155	証拠提示命令の対象証拠の範囲	210
最一決H20. 9. 30 判時2036-143	証拠開示命令の対象証拠の範囲	208
最三判H22. 4. 27 判時2080-135	情況証拠による事実認定の方法	254